

第3回 地域連携会議

2026年2月5日（木）
Kina Career education School 事業
地域協育振興プロジェクト

1

【1分ハイライト】個人の奮闘から、組織化された地域協育システムへ

成果



- 定着率:「ホップ（公民館授業）」継続率60%、「ジャンプ（現場実習）」継続率75%。
- 行動変容:マスクをはずせた。挨拶するようになった。進路目標（美来工科高校など）を語り始めた。
- 学校に通っていない生徒に対して、地域連携により繋がれた。
- 子どもに「読谷ネットワーク」を実感させた。

直面した 課題



- 生活リズムの崩壊:「働きたい」意欲を、「昼夜逆転」という身体的現実が阻む。
- 期待値コントロールの失敗:生徒に対し、支援者が（本人ではなく）母親へ連絡を入れた。学校的な「保護者主義」が「管理・支配」と映り、信頼（ラポール）を破壊した。
- 他9名のサポート。

次年度へ

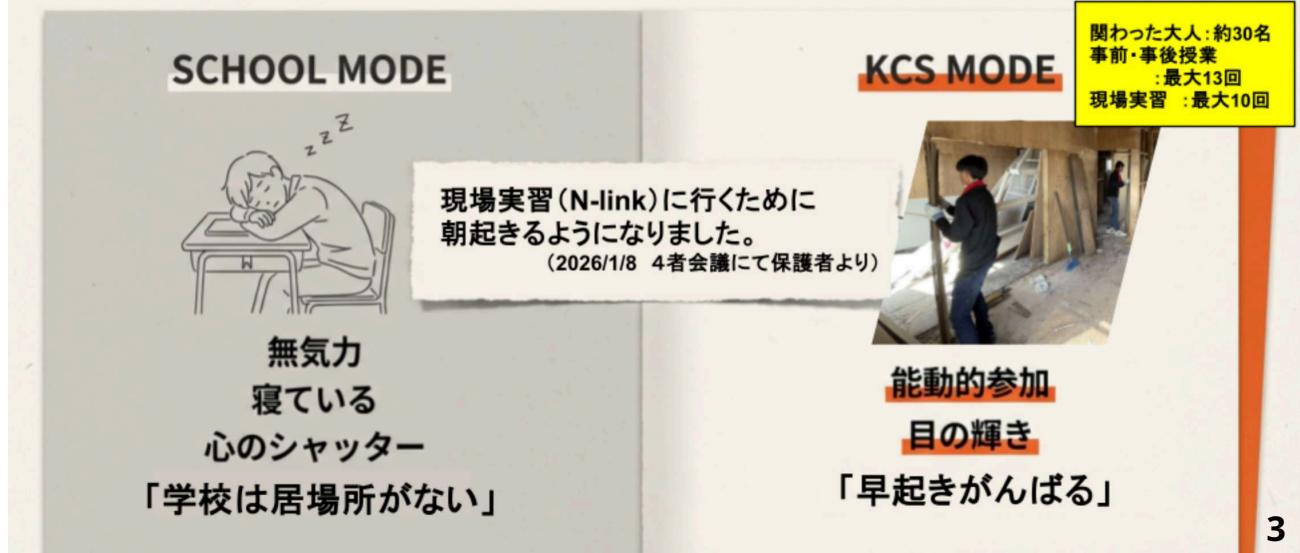


- 親と先生以外の地域の「多様な大人」との関わりから非行行動の予防へ。
- 校長の裁量に依存しない:村としての統一的な校外学習出席認定ルールの策定。
- 進学しない、または中退した生徒の「15歳の壁」を超える切れ目のない継続的な支援づくり。



2

教室では見せない「顔」が、現場にはあった



成功の要因:「ホップ・ステップ・ジャンプ」モデルの実証





今日のまとめ：進化する空の職人

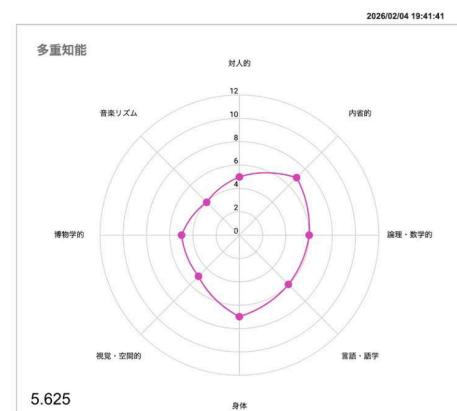
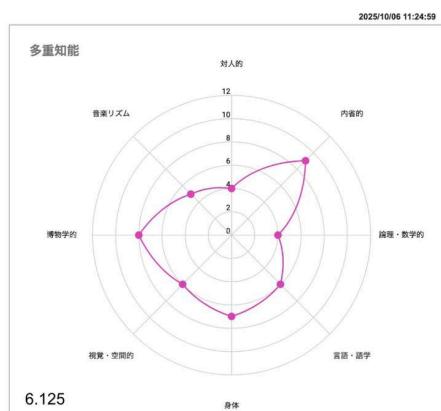


鳥（とび）は、形を変えながら、いつの時代も街を作っています。

5

【多重知能の変化】

突出した強みから、全体的なバランス型への移行



多重知能の変化：

- 自己客観視の芽生え: 突出していた「内省的知能」が落ち着き、自分を等身大に捉えられるようになりました。理想と現実のバランスが取れ始めたサインです。
- 対人・言語の成熟: 間雲に発信するのではなく、相手との距離感や言葉を慎重に選ぶ「落ち着き」が出てきています。
- 身体的知能の安定: 体を動かすことや感覚的な活動が、自信の土台としてさらに強固になっています。
- 観察眼の維持: 自然や空間を捉える能力は安定しており、自分なりの「世界の見方」がしっかりと確立されています。

6

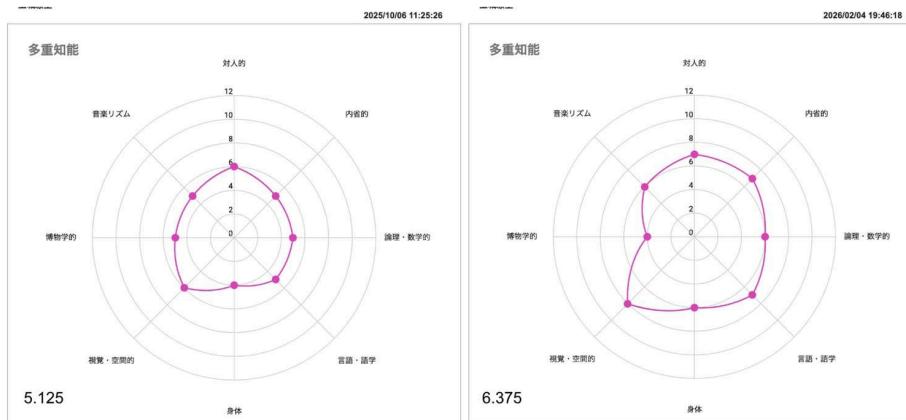
【多重知能の変化】

「内面の自信の深まり」と「活動範囲の広がり」



Bさん（有り余るエネルギーを持つ生徒）

「学校は寝るだけで時間がもったいないから働きたい」と語る。有り余るエネルギーをゲームに注ぎ、昼夜逆転の生活を送っている。「解体をやりたい」と話す。



多重知能の変化：

- 自己認識と表現力の向上: 「内省・論理・言語」のスコアが大きく伸び、自分の考えを整理して論理的に伝える自信がついています。
- 対人関係の安定: 周囲や地域の人々と円滑にコミュニケーションが取れており、対人的な強みが安定したリーダーシップに繋がっています。
- 視覚的表現の飛躍的成長: デザインやプログラミングなど、視覚的に物事を組み立てる力が今回最も大きく伸びました。
- 感性と観察力の広がり: 自然や周囲の変化を捉える観察眼、リズムやパターンを感じ取る感性がさらに磨かれています。

7

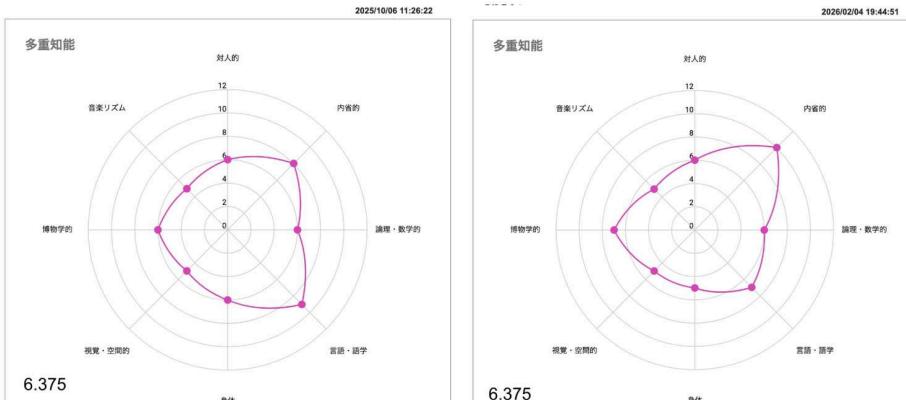
【多重知能の変化】

自己自身の内面や 他者との関わりに敏感な時期における興味深い変化



Cさん（将来の夢を秘めた生徒）

大人しく、自分の意見をいうのが苦手。しかし、オートバイの話には関心を示す。「行けるなら、美来工科で専門技術を学びたい」と話す。

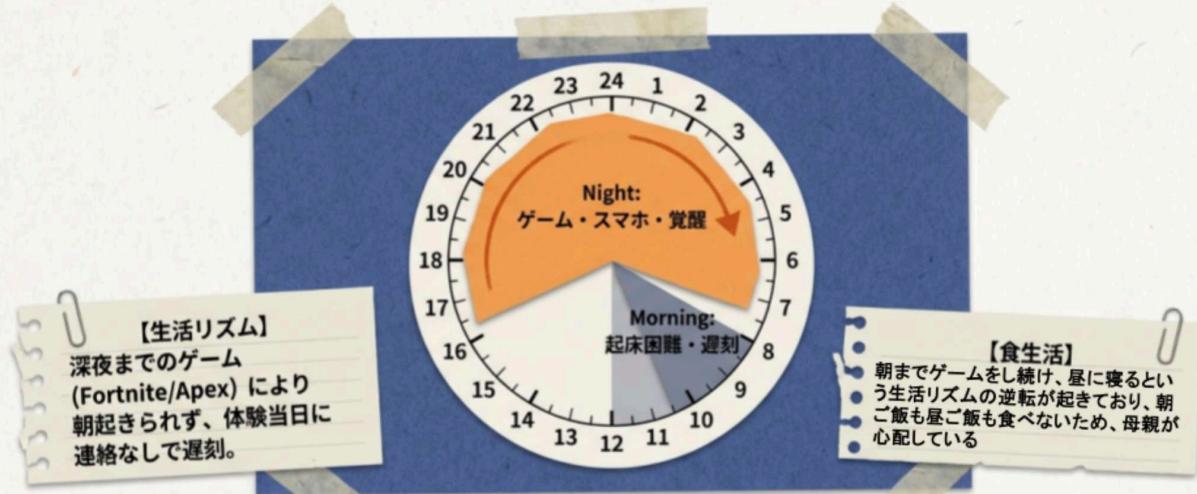


多重知能の変化：

- 自分と向き合う力の向上: 「内省的知能」が大きく伸び、自分の感情コントロールや目標設定力が強化されました。
- 思考の深まり: 外への発信（言語知能）よりも、自分の内側で考えを整理することにエネルギーを使っている状態です。
- 安定した基礎能力: 対人関係、論理的思考、運動・感覚などの能力は、崩れることなく高い水準でバランスを保っています。

8

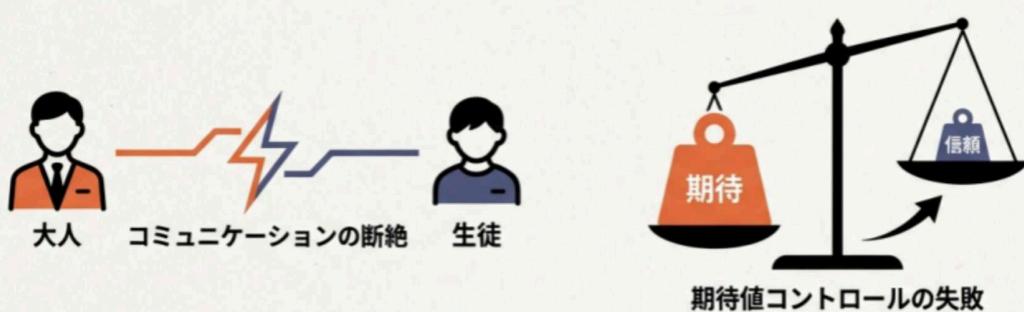
現実の壁①：就労以前の「生活習慣」の崩壊



「働きたい」という意欲と、「体がついてこない」現実のギャップ。

9

現実の壁②：大人への不信感とコミュニケーションの断絶



- 事象：希望した生徒に対し、支援者が（本人ではなく）母親へ連絡を入れた。
- 生徒の言葉：「なんで自分に直接じゃなくて、お母さんを通して連絡が来るわけ？」
- 分析：彼らは「一人の大人」として扱われる事を望んでいる。学校的な「保護者主義」は、彼らにとって「管理・支配」と映り、信頼（ラポール）を一瞬で破壊する。

10

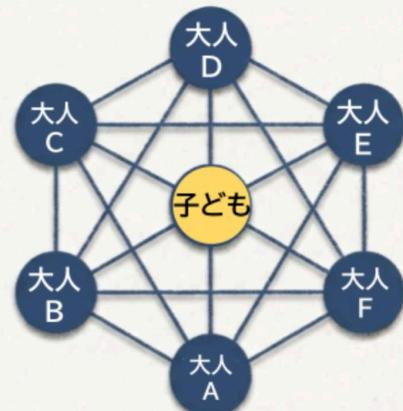
次年度の方向性①：親と先生以外の地域の「多様な大人」との関わりへ

BEFORE(特定の大人)



特定の大人(親や先生)は
甘えられるリスクが大きい

AFETER(多様な大人)



「読谷ネットワーク」でリスクを分散する

多様な大人に承認されて自尊心を満たし、非行活動を防ぐ

11

次年度の方向性②：「15歳の崖」を超える切れ目のない支援

中学卒業
(3月31日)

継続的支援

進学しない、または中退した生徒は、卒業と同時に支援が途切れ、孤立・非行のリスクが急増する。



働きながら学ぶ

地域企業で就労しつつ、公民館で学び直しや通信高校のレポート支援を行う



読谷版COCOLOプラン
村としての統一的な校外学習出席および成績評価認定ルールの策定する



継続的支援
卒業後は、学校から青少年センター・子ども家庭センターにて継続就学・就労支援

12

次年度の方向性③：地域全体で子どもを育てるエコシステム

